



# 熊本支部報

(公社) 日本山岳会熊本支部

第64号

令和8年2月5日発行

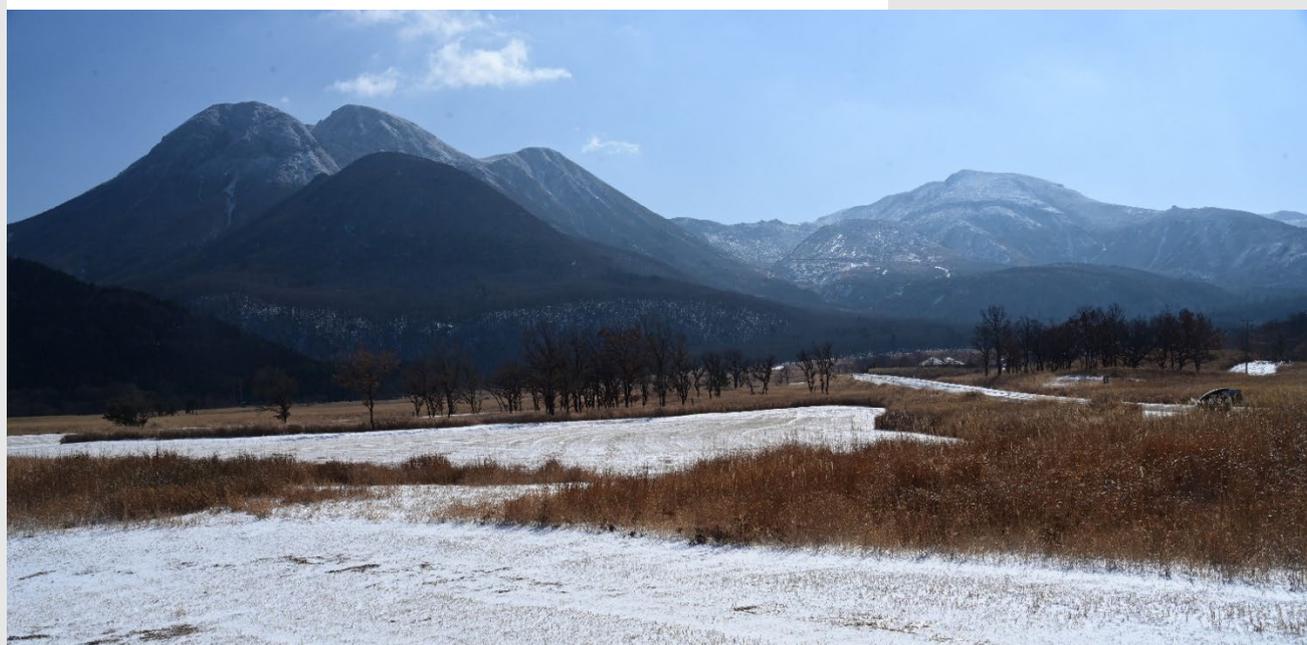
発行者 土井 理

編集者 田北 芳博

(公社)日本山岳会熊本支部事務局

熊本県玉名郡長洲町宮野 2488-2

城戸邦晴 方



雪景色の長者原（遠景は三俣山と硫黄山・星生山）（1月下旬）

目次		ページ
1 日本山岳会九州五支部懇談会報告	城戸 邦晴	②
2 ファーストエイド講習会報告	土井 理	⑦
3 秋の登山教室『涌蓋山』報告書	戸上 貴雄	⑨
4 『白髪岳・川内川源流から周回』報告書	池田 清志	⑩
5 花を愛でる会 マゼノ渓谷紅葉鑑賞会	城戸 邦晴	⑫
6-1 宮崎ウエストン祭	城戸 邦晴	⑭
-2 翌日の古祖母山(1633.1m)登山	中村 寛	⑯
7 日本山岳会120周年記念式典・記念晩餐会の報告	土井 理	⑱
8 忘年登山(不動岩・八方ヶ岳)	中村 寛	⑱
9-1 第18回「山の写真展」報告書	田北 芳博	⑳
-2 登山報告会	田北 芳博	㉓
10 新春晩餐会	城戸 邦晴	㉓
11 会員の異動	城戸 邦晴	㉔

# 1 令和7年度日本山岳会九州五支部懇談会報告

城戸邦晴

令和7年度の九州五支部懇談会は9月21日(土)・22日(日)にわたり阿蘇プラザホテルと阿蘇草原保全センターにおいて開催されました。その概要は次のとおりです。なお日程と参加者名簿の詳細は当日配布した資料(しおり)をご参照ください。

9月21日(土) 13:30 阿蘇草原保全センター

古道調査発表会 14:00～

日本山岳会120周年記念事業として各支部がおこなった担当山岳古道調査について、その概要を発表した。以下、紙面の制約上簡略様式で記載しています。

## (1) 福岡支部(柴田支部長)

(浦前支部長が調査担当し一般参加者を募り調査山行実施)

宝満山から英彦山峰入り道(秋峰) 入峯は鎌倉時代

竈門神社～宝満山・仏頂山～冷水峠～八丁峠～古処山～嘉麻峠～小石原～英彦山  
(→宝満上宮 673年創建) (→嘉穂アルプス) (→行者堂)

見どころ: 行者堂(役の行者像、室町～)、古処山・ツゲの原生林、馬見山・アブラチャン

背振山系峰入りの道 平安時代から続く峰入り古道

基山～九千部山～蛤岳～背振山～金山～三瀬峠～雷山～羽金山～二丈岳～女岳～  
浮嶽～十坊(トンボ)山 稜線へ出るには佐賀県側から登ったほうが行き易い

## (2) 北九州支部(榊顧問)

英彦山峯入り道

檜原神社宝物院・福知山・竜が鼻・障子が岳・添田

求菩提山古道

求菩提山中のみで修行したのが特徴的 行橋豊前、鬼の百段段木、結界石、  
第1～5窟内で修行跡、龍ヶ岳

見どころ: シャクナゲのトンネル、虎の宿(窟が残る)

## (3) 東九州支部(安東支部長)

国東半島 祈りと修行の道

全310キロを3つに分け2年かけて調査し、5ルート作成

輪門菩薩が廻った道を一生に一度廻ればよい 江戸時代には30日で廻った

見どころ: 庚申塔 穴井戸 荘園跡 田染の里など

春の国東半島巡り登山には会員83人が参加

3月に日本山岳会 HP 掲載、本部要請で一部修正あり（中山仙境は峯入りではない）

(4) 宮崎支部（荒武前支部長、日高支部長、川越総務委員長、橋口事務局長）

薩摩街道高岡筋

鹿児島～加治木～国府～都城～岩尾野～佐土原・・・130 ㌾

国見山・和石（難所）

資料：文化庁「歴史の道百選」

飢肥街道 椿山峠

飢肥城～山仮屋～椿山峠～双石山～清武宮崎～佐土原・・・64 ㌾

文化庁「歴史の道百選」

椎葉村の霧立越（きったちごえ）

向坂山～白岩山～扇山 12 ㌾ 昭和 8 年自動車道路開通まで交易路駄賃付道として利用。平家落人伝説・西南戦争・丸目蔵人などの伝説。ブナ原生林、シカ害顕著。平家ブナは朽ち果てている。

松木登山口を経て椎葉村に至る。

資料：宮崎教育委「宮崎県の歴史の道」(S、60)

(5) 熊本支部（中林顧問）

阿蘇山を巡る古道

（12 月に日本山岳会 HP 掲載された）

・修験者の道

馬ノ背ルート；阿蘇神社～

藤谷神社～馬ノ背～山上神社

黒川ルート；西巖殿寺～古坊中～山上奥の院

古坊中は 36 宿・52 坊、戦国時代に消失。逆修碑 1 基のみ残る。加藤清正再興して坊中。

・外輪山越えの峠道

駒返峠ルート；久木野～駒返峠～御所塚～九州自然歩道～山都町稲生野いなおの

御所塚；景行天皇の墓所との言伝えあり

南郷往還；大津町外牧～北向山原生林～南阿蘇村河陰

江戸時代年貢米を運ぶ苦労が大きく、打開のため北向山の急崖を掘削し開設した

椎葉村への向霧立越（むこうきったちごし）

山都町浜町→遠見山→高岳→国見岳→五勇山→椎葉村萱野かやの



発表会風景

(那須往還) (浜の館：阿蘇氏が南へ進出して開いた館 S47 発見)

質問・・・熊本「こし」と宮崎「こえ」どちらが正しいか？・・・どちらも正しい

このあとホテルに移動し、休憩・入浴のあと懇談会・懇親会を行った

## 阿蘇プラザホテル

### 懇談会・懇親会 18：00～

懇談会では各支部より、現状報告と支部の抱える問題などを出し合った。会員の高齢化、それにとまなう役員の後継者不足が各支部共通の悩みのようだ。

女性会員の活動を取り上げた支部があり、続いて各支部より女性会員が前に出て自分の支部の女性の活動状況を発表した。熊本支部では森美代子さんが代表で説明をおこなった。懇親会の部では各支部が得意歌を披露して盛り上がった。最後は東九州支部の加藤さんの提案で「坊がつる賛歌」1～9 番を全支部から代表が前に出て合唱した。(20：00 中閉め)



懇親会風景

引続き二次会 20：00～を行った。(全て終了したのは 21：30 頃)

## 9月22日(日)

### 記念登山

#### ■馬ノ背ルート (以下、敬称略)

1 班リーダー 池田清志、サブリーダー戸上貴雄

(福岡支部) 柴田佳久、渡部秀樹 (北九州支部) 榎 俊一、竹本正幸、竹本加代子、清家幸三、横山秀司、塚本久嘉、日向祥剛

2 班リーダー 城戸邦晴、サブリーダー浦川留美

(東九州支部) 安東桂三、阿南寿範、深草秀昭、佐藤裕之、加藤英彦、飯田勝之、

首藤宏史、上野展子、中野 稔、中野梨絵、工藤吉子、清水道枝、清水久美子

3班リーダー 中村 寛、サブリーダー森美代子

(宮崎支部) 日高研二、荒武八起、橋口三枝子、服部岩男、服部澄子

4班リーダー山本 直、サブリーダー赤星隆弘

(熊本支部) 前田節子、葉 文子、石坂征勝、松本 徹、山下和記、廣木明代

7:30 ホテルで車を乗合せて出発、ホテルの好意で本日登山に使用しない車を午後まで置かせてもらった。朝のうち雨は降っていなかったが山上には雲がかかっていた。

7:55 登山口予定の道路わき空き地に縦列に車を入れた。(事前に使用許可を得ている)

8:00 順次道路を渡り、柵を超えて草原に入り斜面を登った。人が通れるほどの幅で草を刈っており、歩くのに苦痛はなかった。すぐに舗装の牧野道に出てゲートの脇をくぐった。ここから100mほど土塁に沿って行ったが、鉄条網が張ってあり、それに沿って歩くので衣服を引っ掛けないよう注意を呼び掛けて歩いた。足元にゲンノショウコが沢山咲いていた。黒川ルートの舗装路に出て、班ごとに整列して、点呼。各班長から挨拶、紹介などして登山出発となった。

1班は福岡・北九州支部の9名に熊本支部よりリーダー2名

2班は東九州支部の13名に熊本支部よりリーダー2名。中に加藤英彦さんがおられて、お父上の数功さんのことを聞いてみた。九重、祖母山に連れられて登った、深田久弥、森有恒がよく家に来た、川端康成も来たなどと話してくれた。古い登山者には興味深い話だった。

3班は宮崎支部の5名に熊本支部よりリーダー2名

4班は熊本支部の6名に熊本支部よりリーダー2名

30分ほど舗装路を登っていく。小説「二百十日」の場面にそっくりだなどと言いながら。感心して眺める人もいた。「天狗の岩屋はどこか」と聞かれ、西巖殿寺奥の院近くの岩窟だろう、と。「七鼻八石」についても聞かれた。鼻は外輪山の張出部で、石は特異な形状の岩のこと。聞いたのは東九州の安東支部長で、山と高原地図の阿蘇くじゅうの巻を書いているそうで阿蘇のことは詳しい。

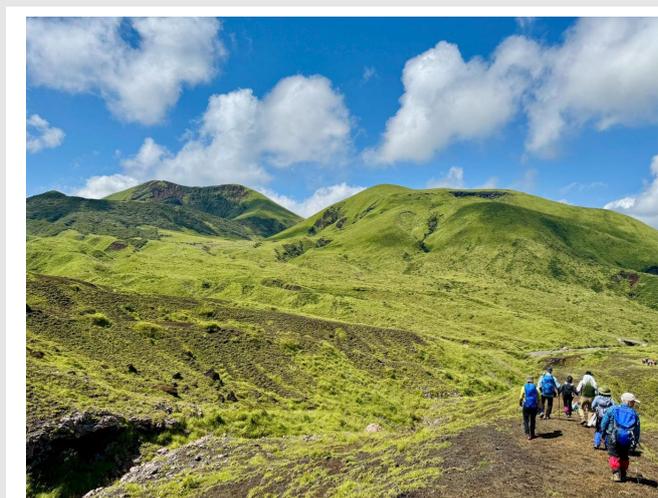
8:50 砂防ダムで小休止。このあと舗装路を離れて草原へ入っていった。前の人から距離が開くとすぐ踏み跡を見失い、それでもすぐ戻って修正して、を繰り返して進んだ。大きくそれることなく谷を下り、一つ二つと越えて三つ目の崖に細い紐を架けた谷も越えた。白いロープは体重をかけずにバランス取るだけですよ、と言いながら越えていく。さいわい事故はなかった。水の流れている沢を越えて草付きを登り、大きな枯れ木の下をくぐり、萱をかき

分け登ってなだらかな稜線に出た。この辺りが判りづらくて、登れば馬ノ背を詰めるのだが、すぐ外れてしまい草木に阻まれて歩けなくなる。気を付けて、テープを探して（何度歩いてでもテープが必要）後から皆さんがついて来るのを見てまた登る。スコリア地面に出て、右手に火山灰計測装置があるところへ来た。数人が歩み寄って装置に興味深そうに眺めていた。岩だらけの道になってまもなくトラバースするための目印のケルンを積んだ場所に出た。このまま登るとマウントカー道路に出て、火山ガスが濃くなって危険なのでトラバースする場所の目印のケルンである。この辺で全班の集合写真を撮ろうとなった。広く阿蘇の風景をバックに入れた写真が撮れた。道のない火山岩堆積地帯を進む。私たちは何度も歩いているので時間は長くは感じなかったが、初めての人はどうだっただろうか。コイワカンスゲ、ツルクサモドキなど知っている名前を教えて歩いた。興味をもって聞いてくれたが、あまり関心を持たない人もいた。大きな坊主岩では班ごとに記念写真を撮った。

11：10 岩が敷き詰められた涸れ沢で昼食を摂った。田北さん（医療救護車）と連絡をとったら、すぐ下の黒川ルートの標識の近くにいるという。土井支部長（医療）より電話があり具合の悪い人がいるので登ってきて待つようにいわれたとのこと。土井支部長は弁当を食べていたので大したことはないようだった。

11：40 出発、狭い尾根、スコリアの地面、濡れて注意を要する粘土質の地面も一部にあったが皆さん注意深く、ストックをつけて下っていた。

12：00 ごろ早くも舗装路に出た。短く感じた。楽しいとこんなものか。辛いと感じる暇もない。後はゲートまで、右に馬ノ背尾根、その先に檜尾岳、鷲ヶ峰、左に往生岳を見てゆっくりと下る。足取りも軽い。阿蘇についてかなり知っている人も多いようだった。



馬の背登山風景

12：30 ゲート着、ここで班を集めて全員無事に下山したことを確認して解散を告げた。

12：50 駐車場空き地到着このあと阿蘇プラザホテルへ向かった。ホテルは入浴をOKしてくれていた。一部はホテルに寄らず帰途についた。登山は予定通りに進んだ。心配していた事故もなく、大変有難いことであった。

観光コースは途中連絡が入り、メンバーが後の予定を抱えているとの事で、先に解散して貰

った。

## ■観光コース

登山に参加しない方達を阿蘇の観光地を見学してよさを満喫してもらおうと、三宅さんが案内した。なお、阿蘇ジオパークガイドの見玉ガイドにご同行願ひ、火山の専門的な説明をしていただいた。

引率；三宅厚雄

参加者；川越正則、森尾奈美、  
児玉史郎（阿蘇ジオパークガイド協会）

行程；7：30 阿蘇プラザホテル出発～  
阿蘇中岳火口見学～阿蘇火山博物館～  
坊中野営場～夏目漱石文学碑見学～  
西巖殿寺見学～12：30 ホテル着

お礼

今回の九州五支部懇談会を開催するにあたり、  
会員・会友の皆様方には多大なるご協力をいただきました。皆様のおかげで無事に終了できました。心より感謝申し上げます。



馬の背登山道にて記念写真



草千里からの烏帽子岳

## 2 2025 年度 日本山岳会熊本支部山岳ファーストエイド講習会報告

担当：土井 理

期日：2025 年 10 月 12 日（日曜日）-13 日（月曜日祝日）

四季の里旭志にて山岳ファーストエイド講習会開催しました

集合・受付時間：10 月 12 日 9:30～ 受付場所：中広間 入り口付近

10 月 13 日 9:30～ 受付場所：中広間 入り口付近

講習場所：座学：本館 中広間 実技：中広間・野外芝グラウンド

講習開始：10 月 12 日 10:00～

費用：資料代＋使用料金＝約 1000 円。1 日のみの方も、2 日間の方も同額としました。  
 2 日間参加：城戸邦晴、池田清志、山本直、岩下律雄、廣木明代、松本徹、舛田レイ子  
 山本和記、土井理 9 名

1 日目のみ参加：中村寛、石坂征勝 2 名、 2 日目のみ参加：浦川留美 1 名

収支：12 名で 合計 12000 円：阿南大吉社長から施設利用料金は不要と施設担当者からの話があり、その後阿南大吉社長とお話しし、阿南大吉さんの支部会費として充てる事とする事と致しました。現在の支部会費が 3000 円なので、3 年分として充填する事と致しました。

◎ 10 月 12 日（日曜日）スケジュール

10:00～12:00	座学講義＋実技	山岳ファーストエイド概論、救助要請を含む
12:00～昼休憩	休憩	昼食
13:00～17:00	座学講義＋実技	熱中症、高山病、低体温、ロープワーク 等 シナリオトレーニングは野外或いは室内で

終了し次第解散

宿泊：土井理、城戸邦晴、池田清志、山本直、岩下律雄 5 名 宿泊代 1300 円 各自  
 シャワー後、部屋で食事をし、宴会、対話を行った。

◎10 月 13 日（日曜日）スケジュール

10:00～	座学講義＋実技	前日の復習と出来なかった分の追加講習
10:00～ 13:00	野外或いは室内にてシナリオトレーニング、ロープワーク等 8 の字結び、クローブヒッチ、巻き結び、ボーライン、シート ベント バタフライノット、ダブルフィッシャーマン、ハーフマスト、 リングベント、 フリクションノット：プルージック、マッシャー、クレイムハ イスト バッチマン、	
～13:00	昼食＋振り返り	シナリオトレーニング、解散

ザイルでの登り返し、カナヒラの使用でのクローブヒッチ、ハーフマスト等の使用でのザイルの使用し方等、熱中症への対応、高山病への対応をシナリオを用いて 3-4 人のグループで対象対応して頂きました。天候も晴れで野外の立ち木を用いてのザイルの扱い方を学んで頂きました。



### 3 秋の登山教室『涌蓋山』報告書

担当／戸上貴雄

1. 期 日：令和7年10月26日（日）

2. 場 所：涌蓋山

1499.4m（熊本・大分の  
県境域にあるが山頂は  
大分県玖珠郡九重町）

3. 行 程：6:30 受付開始  
/集合・菊池市民広場、  
マイクロバス 18 名と救  
護車 5 名で 7:00 出発  
～瀬の本レストハウス  
でトイレ休憩～八丁  
原登山口到着・準備体



操・8:40 出発～8:55 一目山登山口ゲート～9:50 みそこぶし山～10:20 ひぜん湯コース出  
合～10:25 涌蓋越～11:02 女岳山頂～11:40 涌蓋山山頂・中食 12:30 下山開始～13:23  
林道出合～14:05 ゴール/はげの湯登山口 整理運動等の後 14:25 バス等出発～  
道の駅小国で休憩～15:50 菊池市民広場到着 / 解散 【山行距離：約 8 km】

4. 参加者：会員等 14 名 ほか一般参加者 9 名の計 23 名（登山は救護車・田北を除く 22 名で 3 班  
構成）池田清志、池田のり子、石井美喜男、石坂征  
勝、城戸邦晴、坂井哲矢、田北芳博、武田偉幸、土井  
理、戸上貴雄、中村寛、前田節子、松尾重勝、山本直  
〈以上敬称略〉



5. 会 計：会員 5,000 円×14 + 一般 5,500 円×9 =  
114,500 円 ☞ 参加費収入合計

バス代 91,300 円、下見時&当日救護車ガソリ  
ン代 7,500 円、熊日新聞広報代 4,840 円、資料  
コピー代 4,697 円、傷害保険代 1,000 円、通  
信費等雑費 660 円 以上経費計 ☞ 109,997  
円 差額の 4,503 円は支部会計へ繰り入  
れ

6 参加者の感想等

○バスの中での話は初めてで勉強になった。 ○土井先生  
の話は要領よく理解できた。 ○長崎だけど、この会員  
はどうしていますか？〈土井先生が福岡支部に入っている  
人もあると説明〉 ※登山の途中よく私(中村)から話し掛け

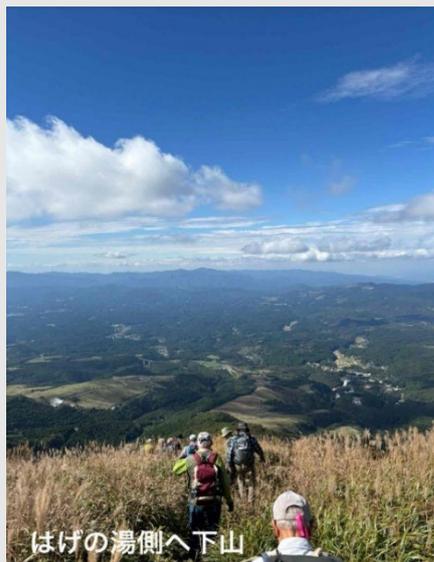


ました。涌蓋山頂上は、熊本・大分の2つの祠が有り、山開きは、大分側の祠で神主の神事がある事、三角点は距離で設置され山の高さではないこと、馬酔木は毒があり鹿も食べない等々お話ししました。T SMCからお二人の参加がありましたが、登山歴1年なのにもう37座登ったことや会社に登山クラブがあり、70名ほどのメンバーがいるそうです。また誘うので一緒に登ろうと言って別れました。

○楽しかった、機会があればまた参加したい。 ○自分たち一般参加者にペースを合わせてもらい、歩き方のアドバイスを貰ったことも有難かった。 ○資料の豊富さに感心した。 ○ポイントごとに地図を見てチェックしたり周りを見たりしたのは良かったし、登山も楽しめた。 ○初心者で月に1~2回しか登らないので、女岳を登るときがきつかったが登れて良かった。植物の説明もあって良かった。 ○お花摘みがこれまで申し訳なく、何となく遠慮ガチだったが、今回は楽だった。

### 《 行事を終えて 》

当初の年間計画では韓国岳でしたが、新燃岳の噴火に伴う入山規制が懸念されたため、急きょ涌蓋山へ変更となった次第です。涌蓋山には登山コースを変えながら単独又は複で下見を3回行いました。貸切バスを利用するのであれば回送が可能であるため、縦走的に歩く方がフレッシュと考えてコースを設定しました。



出発して間もない時間に、一般参加の女性が体調不良を訴えて離脱することになったものの、支部長が付き添って戻り、救護車担当の田北さんへ引き継いで事なきを得ました。

支部長によるバス車内講義「山で道に迷わない為には」は理解し易く皆に大変好評で、天気にも恵まれ怪我人も出ず、まずは成功裏に終えることが出来たと思います。【貸切バスの運用に最も気を使います、疲れました！】

## 4 『白髪岳・川内川源流から周回』の報告書

低山クラブ／池田

期日：令和7年11月15日(土)

場所：白髪岳 1417m(球磨郡あさぎり町)

行程：6:50 道の駅・竜北集合、竜北公園へ移動後出発 7:10~9:00 猪子伏登山口 9:20~11:30 川内川源流 11:40~12:00 稜線(昼食)12:40~13:00 白髪岳 13:30~13:40 三池神社 13:50~14:45 猪子伏~15:00 猪子伏登山口 15:15~16:20 山江 SA(解散式)16:40~17:15 竜北公園 17:25、解散

参加者：(12名)赤星隆弘、池田清志、坂井哲矢、佐藤 勲、武田偉幸、田上さやか、中村寛、松本 徹、前田節子、森尾奈美、山下和記、葉 文子、以上敬称略

会計：収入 1人 1250円×12名=15000円、  
支出：ガソリン代(片道 80km×2×25円×3台=12000円)、車使用料(1台 800円×3台=2400円)、資料印刷(50円×12名=600円)

以上、支出合計 15000円

参加者の感想(以下に赤星隆弘氏がヤママップの活動日記にアップされた活動記事を一部引用)

ルートは川内川源流を探訪して入渓、沢登りではないが沢沿いに渡渉を繰り返しながらガレ谷を歩く。

けっこうな急登、浮石と落葉に苦戦しながら歩く。かなりの時間と体力を要しながらも川内川源流に辿り着く。

源流の標識は稜線下部の三つの合わせ谷に表示あり。

それにしても鹿児島県側の源流が熊本県側の球磨地方の谷にあるというのは不思議。

この谷を登り詰めること 10分で白髪岳と陀来水岳の稜線に飛び出る。

ここから白髪岳へは稜線を歩く…ピーカン青空の下、快適に山頂を目指す。中腹からいきなり霧島連山の絶景がドーンと目に映る。

わくわくしながら山頂に立つと 360°の絶景、言わずと知れた韓国岳・高千穂峰、市房山・石堂山・天包山の米良三山、向霧立・霧立越の峰々、さらには遠くに雲仙普賢岳とワクワク感が止まらない。

山々同定を楽しんだら、一般道で下山開



始。三池神社、猪ノ子伏を通過して新登山口に降りる。晴天に恵まれたよき登山でした。



## 5 花を愛でる会 マゼノ溪谷紅葉鑑賞会

城戸邦晴

期日；令和7年11月17日(月)

行先；マゼノ溪谷、押戸石山、尾ノ岳

行程；8：00 菊池公園集合 8：05 出発～9：00 マゼノ溪谷 11：08～11：18 押戸石山

12：13～12：25 尾の岳駐車場 12：50 登山開始～13：00 山頂 13：15～13：20

駐車場～14：10 菊池公園着・解散

参加者；(7名) 松尾重勝、前田節子、池田清志、石坂征勝、佐藤 勲、坂井哲矢、城戸邦晴

観察できた植物；

ヤマラッキョウ、リンドウ、ツルリンドウ、ヨメナ、ヒメジオン、イロハモミジ、

ヤマモミジ、タンナサワフタギ、カシワ、アカシデ、イヌザクラ、ホオノキ

### マゼノ溪谷

ここはマゼノ森林組合が所有し、普段は立入禁止とされ、春と秋の限定期間のみ公開という守られた場所である。到着した時に観客はまばらだった。紅葉は見ごろを迎えていた。一帯にはクヌギやカシワが多かった。木を切った痕跡がなかった。倒れた木は放置され腐ってい

た。溪谷に滝があり、その下側に下りてみた。濡れた岩の上を注意して進み、滝壺に近づき写真を撮った。

滝の上側に移動してみたが、あまり写真には向かない気がしてすぐに出た。ゆっくりみんなで散歩しながら道を下り駐車場へ戻った。石坂さんが大きな葉っぱを手にしていて、ホオノキらしい。貰ったが、いつの間にか亡くしていた。

「秘められた紅葉」をたっぷり味わわせてもらった気分だった。

帰る時には駐車場には車がいっぱいだった。平日のせいか高齢者が多かった。みなゆっくりと歩いていた。

### 押戸石山（おしどいしやま）

山上には石が林立し不思議な様相を醸し出していた。天気が良く、周囲の山々がきれいに見渡せた。管理人によれば中食は石の上で摂っても構わないとのことだった。

巨岩にしめ縄が張ってあった。岩の表面に小さなくぼみが沢山あり、そこに硬貨がはめ込むように置いてあった。お賽銭かテレビの泉のつもりなのだろうが、1円から100円まで賑やかであった。管理人が、よじ登って注連縄を変えたいが岩が大きくて登れないので出来ない、とボヤいていた。

札幌テレビが来ていた。池田さんが名刺をもらった。来場者には若い女性が多くいた。昨日のテレビでここが取り上げられ、アイドルグループ「嵐」のメンバーがスプーンを簡単にねじまげるシーンが放送されたらしい。見ると皆スプーンを持っていた。ある女性が曲げてみせた。すると簡単に曲がった。きっと柔らかいスプーンなのだろう。

磁石が狂うとってコンパスを石に寄せる人がいた。自分も持ってきたコンパスでやってみたら、少し針が右へふれた。岩に鉄分が多く含まれているらしい。入口で方位磁石を貸していたのを思い出した。山頂では磁石が狂うとのこと。これも話題の一つか。ここは意外とファンが多いらしいが、たしかにまたゆっくり来たいと思うところだった。

### 尾ノ岳（おのだけ 1041m）

菊池阿蘇スカイラインからもやまなみハイウェイからも、きれいに見える山で、いつか登ってみたいと思っていた。今回のメンバーは誰も登ったことがなかった。

マゼノミステリーロードを菊池阿蘇スカイラインへ戻ると間もなく右へ分かれてすぐに県境の峠にかかる。ここに登山口駐車場があるが、樹々に囲まれて周囲は見え、事前情報とは異なっていた（津江のサーキット場が見えると聞いていた）。

クヌギ林の中、笹の生い茂った原をかき分けるように登った。登山は7分ほどですぐに山頂に着いた。

山頂には一等三角点があったが、樹木がさえぎって視界はきかず、しかし草の丈は低くて、普段から人が登ってきているように思われた。なだらかな丘陵のてっぺんで、昔は眺めがよかったのだろう。しかし長居する気にはならず、写真を撮って即刻下山した。あっという間

に駐車場に着いた。帰路につき、車で少し走ると阿蘇畜産試験場があった。そのすぐ先は菊池阿蘇スカイラインだった。



写真はいずれもマゼノ溪谷で

## 6-1 宮崎ウエストン祭

城戸邦晴

第38回宮崎ウエストン祭が今年も11月3日高千穂町五ヶ所の三秀台でおこなわれた。日本アルプスを世界に紹介し近代登山の父といわれたウォルター・ウエストンは宣教師として熊本に滞在したが、その後神戸に転任し、当時九州最高峰といわれていた祖母山に登った。日本アルプスに登る1年前のことであった。それを記念して1965年五ヶ所高原にウエストン記念碑が建てられた。1985年から毎年11月3日に日本山岳会宮崎支部と高千穂町の主催で宮崎ウエストン祭が行われている。日本山岳会の「引き継がれる山岳祭」にも挙げられている。今年、本部からは柏澄子副会長が参加されていた。熊本支部からは土井支部長はじめ5人の会員会友が参加した。

午後1時半に大津を出発し、3時頃に五ヶ所到着、三秀台で開始を待った。五ヶ所高原の記念碑の立つ高台は周囲に祖母山、九重山、阿蘇山の秀峰が見渡せるので三秀台と呼ばれる。この日もきれいに晴れわたり、これらの山々がくっきりと見えていた。風が吹いていて寒かった。三角旗が飾られ日章旗、日本山岳会旗も風にはためいていた。4時に式典が始まり、

高千穂町長、日本山岳会宮崎支部長、日本山岳会本部の挨拶などがあり、その後児童により鐘が鳴らされ、美しい風景の中に鐘の音が流れていった。ウエストンの歌が披露された。30分ほどで式典が終り、我々は五ヶ所高原ひめゆりセンターへ入った。荷物を置き、歩いて五ヶ所野菜集出荷場へ移動した。ここで村おこし推進協議会主催の交流会があった。バザーが始まり、うどんやビールを買い求めて開催を待った。名物の竹に入れて熱燗をしたカップ焼きそばがふるまわれた。寒い中、ことにおいしかった。

暗くなって開催の挨拶から始まった。古代の衣装を着た新婚夫婦が「遠き山に日は落ちて」のメロディーに乗ってあらわれ点火式、炎はたちまち燃え上がり、天を焦がした。夜空には満天の星が輝いていた。ロマンティックな夜であった。神事後、アトラクションが披露された。高千穂神楽、和太鼓演奏など沢山演目があったが、熊本支部の中村寛さんのギターと歌が今年も披露された。「さらばシベリア鉄道」などの懐かしい歌声に参加者はみな喜んだ。最後に抽選会で盛り上がった。今年は特に地元産のおいしいお米が期待されたが、その一つは本部の柏副会長の手元に落ちた。9時ごろに終了し、我々は五ヶ所高原ひめゆりセンターへ移動。そこで各支部との交流会が始まった。

交流会では各支部が近況報告をしたが、熊本支部は九州五支部総会の参加への御礼を述べた後、歌を披露した。定番となった「穂高よさらば」。そして宮崎支部は「思い出のスカイライン」、東九州支部は「坊がつる賛歌」、いずれもお馴染みの歌声が流れた。交流会は10時には終了した。その後は大広間に寝袋を並べての雑魚寝である。翌日、宮崎支部などは祖母山に北谷から登山する。これは毎年同じようだ。熊本支部は独自登山、今年は古祖母山である。

恒例の宮崎ウエストン祭であるが、最近は参加者が漸減しつつある。まだ参加したことのない会員会友にはぜひ日本山岳会の歴史を感じさせる三秀台の祭典に顔を出してみたい。そして登山のロマンを感じて欲しいと思う。

(参加者) 土井 理、城戸邦晴、坂本雄二、中村 寛、中野 剛 (5名)



宮崎ウエストン祭



古祖母山より祖母山

## 6-2 ウェストン祭り翌日の古祖母山(1633.1m)登山

担当 中村 寛

期日：11月4日(火曜)

時間：午前7時 公民館発

目的の山：古祖母山(ふるそぼさん、1633.1m)

参加者：城戸邦晴、坂本雄二、中野剛、中村寛

登山口 尾平トンネル登山口(約30~40台駐車可)

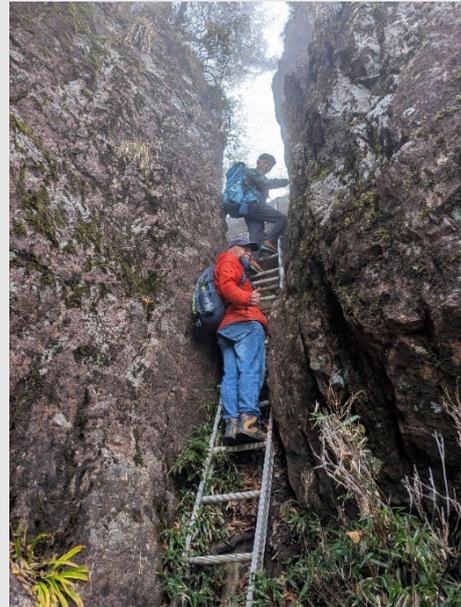
行程 尾平トンネル登山口 8:00⇒尾平越 8:30⇒古祖母山 10:30⇒尾平越 12:40  
⇒尾平トンネル登山口 13:15 距離 5.9 km 時間 5時半

\* ウェストン祭りの後近くの公民館で夜の10時過ぎまで懇親会、その影響もなく7時前出発、50分程で登山口に着いた。気温は2度、寒い。昨年 비해参加者は半分以下の4名、車1台で向かった。

駐車場から尾平越までは30分程の登り。ここまで来るとその後は緩やかな稜線歩きになります。ここは、祖母~障子岳~古祖母~本谷~笠松~傾山と続く祖母傾山の縦走路にあり一息付ける所です。マイナーな山が多いけど縦走路なので登山道は、はっきりしていて歩きやすい。目的は、紅葉と馬蹄形の向こう側に見える祖母山。ただ今年は、黄葉は見られるが、もみじの赤があまり見られなかった。それでもガスの中で時折顔を出す祖母山や紅葉を探して写真を撮った。



\* 古祖母山山頂で城戸さんの最高の笑顔。あいにくのガスで南側は展望が利かなが、北側は、時折晴れて祖母山も望めた。



\* 頂上近くの唯一の難所？のはしご場

\* 登山後、時間があったので帰りに高千穂の天岩戸神社に寄った。日本神話でも有名なアマテラスオオミカミが隠れた洞窟があるのが、この神社です。沢山の観光客が、訪れていました。私達も1時間程観光を楽しんだ。



\* 古祖母山までの行程です。



\* 頂上で初参加の中野さんと記念撮影



\* 縦走路から古祖母近くの黄葉



\* 天岩戸神社から川を渡ると岩の下に祠がある。神話に詳しいともっと楽しめると思う

## 7 日本山岳会 120 周年記念式典・令和 7 年度記念晩餐会の報告

報告 土井 理

期日：2025 年 12 月 6 日（土） 場所：京王プラザホテル（東京新宿）

参加者：廣永峻一、山本直、土井理、浦川留美 の 4 名

今回は 120 周年記念の晩餐会で、天皇陛下のご臨席を賜り開催されました。この為、講演会会場、式典会場、晩餐会会場に入る際には、手荷物検査が行われました。

10:30 から支部懇談会として Google Workspace と Gmail の使用の説明会があり、山本直さんに参加して頂き熊本支部としての対応して頂きました。

13:00 から記念講演会が開催されました。

講演 1、ヨッヘン・ヘムレブ氏による「エベレスト最大の謎ーマロリーとアービン捜索 40 年」

講演 2、重廣恒夫 氏 による「日本山岳会ヒマラヤ登山の歴史」の講演があった。

16:30 には記念式典が開始され、会の始まる直前には、橋本しおり会長に先導された陛下が入場され式典に参加されました。式典終了後、陛下は一時退室されました。

18:00 から年次晩餐会が始まり、今年は熊本支部 4 人と宮崎支部の 2 人が同じテーブルでした。天皇陛下は 18:00～20:30 過ぎまで長時間ご出席され、イギリス大使をはじめ各国の参加者の方からのご挨拶を受けておられました。

我々のテーブルも天皇陛下から近くのテーブルで、席を立つことは禁止されており、写真撮影も禁止されておりました。

陛下御退室後、会の終わりには東九州支部が「坊がつる賛歌」を歌うので同席する様にうながされ、東九州支部、福岡支部、熊本支部、宮崎支部で「坊がつる賛歌」を歌わせて頂きました。会終了後解散しました。



## 8 忘年登山 12 月 13 日(土曜)～14 日(日曜)

担当 中村 寛

① 12 月 13 日(土曜) 日ノ岡山、蒲生山、不動岩

②12 月 14 日(日曜) 八方ヶ岳

③12 月 13 日(土曜) 宿泊と食事会、道の駅 鹿本水辺プラザ隣り〈きなっせ〉

参加者 松尾重勝(13 日のみ)、内布陽子(13 日のみ)、安場俊郎、前田節子、森尾奈美、葉文子、石井文雄、佐藤勲、武田偉幸、坂井哲也、松本徹、赤星隆弘、城戸邦晴、土井理、廣木明代(14 日のみ)、戸上貴雄(14 日のみ)、松本莞爾(食事会のみ)、末永保則(13 日のみ)、中村寛 計 19 名

1、不動岩(中不動、後不動)、日ノ岡山 312.8m、蒲生山 388.4m 6.3 km 3.5 時間

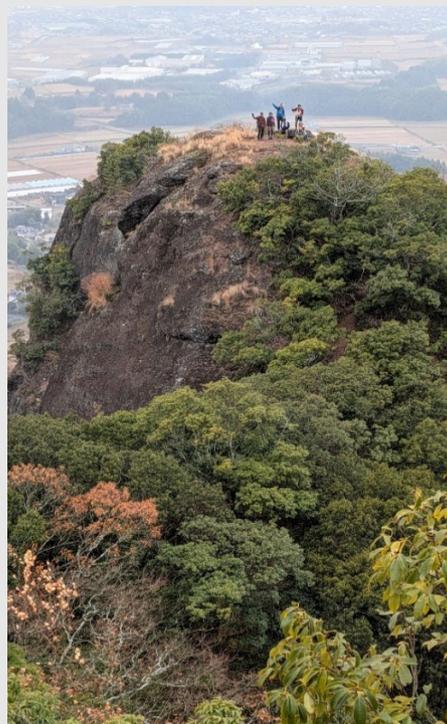
山鹿市内から北を望むと蒲生山の西側にひと際険しい岩峰が見えます。それが、不動岩

です。前不動、中不動、後不動、があり夏にはライトアップされます。長い年月をかけて、さざれ石(細石)が巖となったのがこの岩です。今回は、蒲生池から日岡山、蒲生山、後不動、中不動と登る周回コースをとりました。その後水辺プラザで入浴しました。

\* 行程 12:15 蒲生池発⇒13:00 日岡山⇒13:30 蒲生山、後不動⇒14:10 中不動  
15:30 蒲生池登山口着



・日ノ岡山  
落ち葉がいっぱいの冬の散歩道



・中不動のハ人、落ちたら死にます

## 2, 八方ヶ岳(1052m) 北尾根コース 9.6 km 6時間20分

水辺プラザ発 8:00⇒矢谷溪谷、登山開始 8:45⇒矢谷橋登山口 9:20⇒穴川分岐 11:00  
八方ヶ岳(食事)12:00⇒矢谷溪谷 15:05

2日目は九州百名山の八方ヶ岳、前日夕食会、その後部屋で皆で飲んでの雑談。それでも当日は2日酔いもおらず時間通りに出発。今回は、班を2つに分け従来の沢沿いのコースと健脚組は傾斜の急な北尾根コースに別れて歩きました。

また蟹足岳(通称カニのはさみ岩)は、前日夜の雨と当日の時々吹く強風の為危険と判断し登りませんでした。矢谷溪谷の沢沿いには、干支の山(黒髪山)で紹介できなかったカネコシダがあります。ウラジロも近くにあり比較対象できます。私は、見過ごしましたが、戸上さんは優雅に揺れるカネコシダを直ぐに見つけて皆さんに名前だけでなく、その植生まで説明をしてもらいました。

今回は、パスしましたが、通称カニのはさみ岩については、後日また皆さんを案内したいと思います。2日連続の登山になりましたが、全員無事に登山口に戻ることができました。

・1丁2丁山頂!の合図で頂上で記念撮影 先に上ってきた健脚組です。この後遅れてきた



仲間も頂上で合流できました。



・カネコシダ 正月の門松飾りウラジロと違い裏は白くありません



・沢沿いのコースを登った森尾さんと武田さん。岩の下には、見た通り岩下神社と書かれています。



・頂上での食事 時折冷たい風が吹きましたが、見晴らしが良く気持ちのいいお昼でした

### 3、宿泊と夕食会



・水辺プラザ隣の宿泊施設きなっせ

・食堂での夕食会の模様

・宿泊は、〈きなっせ〉で3部屋予約。温泉(宿泊者には無料券)に入りその後広い食堂で5時半から7時半まで食事会。食事は道の駅から弁当を1500円で予約。お酒は持ち込みました。

松本顧問からは、ワインをまた会の皆さんからも焼酎、お酒、ワインの差し入れがありました。私はギンナンを持ち込みました。その後部屋で皆さんと一緒に9時半頃まで楽しく会話を楽しみました。

翌日の朝食は、水辺プラザで1000円のバイキング、お腹いっぱい食べました。

朝沢山食べるとお昼が要りません。

また来年の参加をお願いします。



○印はカネコシダの植生地です。青線は健脚組が歩いた北尾根コースです。沢沿いのコースより30分程時間がかかります。

## 9-1 第18回「山の写真展」報告書

報告者 田北 芳博

開催期間 令和7年12月1日(月)～12月21日(日)

会場 熊本市食品流通会館1階ギャラリー(フードパル)

熊本市北区貢町581-2

出展者 14名 土井理・城戸邦晴・池田清志・戸上貴雄・中村寛・廣永峻一・三宅厚雄

石井文雄・安場俊郎・赤星隆弘・阿南大吉・中野剛・廣木明代・田北芳博

出点数 33点 内訳(A4)10、(B4-A3)20、(大パネル)3 (前年度33点)

来展記帳者数 107名(名簿重複排除・前年度100名)

写真展示 設営 11月29日(土)午前9時より 撤収 12月21日(日)午後3時より

フードパルでの展示は今回で3回目であった。また今回が山の写真展は18回である。もはや伝統と担当者はいいなくなってきました。出展者が今後増えることを期待するものです。今回の展示は昨年と同数ですが、展示場のスペースを考えると、ちょうど良い出展数であったと考えます。なお今回は白根三山、利尻山、冬の八ヶ岳と出展者が多くなるのではと思いましたが、余り重複はありませんでした。

### アンケート投稿から

○登山と写真ですが、機材もかなりの重量になることでしょうか。しかし頂上では下界の出来事がちっちゃなもんだな～なんて思いになられるのでは？勝手に考えました。○ナンガパルパット(8126m)パキスタンの山は絶景でした。石井さんの珍しい花々や廣永さんのイノシシの昼寝などナイスショットでした。今回も皆様力作でした。○登山好きな主人を連れてきました。ここ数年はいけてないですが、ほとんど登った山ばかりで楽しそうに説明してくれました。きれいな写真に久しぶり感動しました。新聞記事を見つけましたが、また見つけたら出かけます。○登山はしたことありませんが、頂上から見る景色は登った人だけが味わえる達成感があると思いました。○懐かしい風景もあり、ステキでした。次回も楽しみにしています。



第18回 山の写真展 出展者作品一覧

出展者	作品名	作品名
土井理	第2峰北岳から最高峰富士山を望む 夕日に染まる白銀の大同心	南アルプス天空の稜線
石井文雄	マメザヤタケ ショウキラン(黄花) ミヤマキリシマ(白花)	ナツエビネ ウチョウラン アケボノツツジ
廣永峻一	小萩山の自然 その1	小萩山の自然 その2
城戸邦晴	レブンウスユキソウ	甲斐駒ヶ岳
池田清志	北と西のしま山(利尻島・五島)より	大パネルに4枚
安場俊郎	ナンガパルパット(8126m)	ディラン 7257m

赤星隆弘	石鎚山紅葉二景 その1	石鎚山紅葉二景 その2
中村寛	日の出前の富士山	国見岳 新しくなった祠の前で
戸上貴雄	市房山九合目	天主山九合目
中野剛	飯田山から上る朝日	
廣木明代	錦の絨毯 杳掛山からの紅葉の道	霜をまとう落ち葉
三宅厚雄	九重山、大船山山頂からの眺望	夕暮れの雲仙岳と有明海の干潟
阿南大吉	神の子池	雲海の富士山
田北芳博	雲と利尻山 樹氷と米塚	礼文島の花群生と利尻山 秋の長者原

※写真展示は道の駅大津にて一部を延長展示中 12月27日～2月23日です。

## 9-2 登山報告会

12月7日(日) 午後2時から午後4時 担当 田北 芳博

熊本市食品交流会館1階会議室B (フードパル・昨年と同じ)

出席者 23名 (会員会友16名、一般参加者7名)

報告者

### 1 土井 理 「南アルプス遠征登山報告」

7月18日(金) から7月22日(火) 白根三山縦走の報告

参加者10名で、広河原～北岳～間ノ岳～農鳥岳～奈良田。天候は期間中好天でいつも富士山を眺めて、素晴らしい眺望を満喫したとのこと。行程中の絶景写真を元に報告を受けた。

### 2 城戸邦晴、池田清志「利尻山、礼文島登山報告」

7月8日(火) から7月11日(金) 利尻岳中心の登山報告

山行参加者8名 計画者である池田氏から今回の登山ツアーの概略を説明。その後城戸氏から利尻登山の詳細を報告していただいた。

### 3 安場俊郎 「パキスタン、カラコルムレッキング」

7月に20日ほどかけてカラコルム、ナンガパルバット(8126m)、ディラン(7257m)トレッキングした報告。素晴らしい山々の絶景に感動。パキスタンの風物に感動。



## 10 令和8年新春晚餐会

城戸邦晴

期日; 1月17日(土)、17時～19時

場所; ダイニング和YA (わや)

今年の新春晚餐会は上通町の居酒屋ダイニング和YAで行われた。

定刻の 5 時を少し遅れて始まった。土井支部長の新年の挨拶の後、工藤顧問の乾杯へ。工藤顧問の挨拶はマロリーのエベレスト登頂の謎に話が及び、参加者の興味は尽きなかったが、短縮してもらって一旦乾杯、続きはまたの機会にととなった。(工藤顧問がこの続きは支部報掲載でとおっしゃっており、皆さん楽しみにお待ちください)。しばし懇談のあと土井支部長による谷川岳冬山遠征の話。古老の会員以外は行ったことがなく、ほとんどの皆さんが未知の山域で、興味深く聞き入っていた。登山時の写真も壁に映し出され、雪山風景に驚きの声が上がった。

このあと参加者の自己紹介となった。今年度の新規加入者が複数おり、会員の近況も聞けて、よい挿入プログラムになった。

3月までの行事予定を公表して、最後に松本顧問の締めで閉会。2時間の予定はあっという間に過ぎていた。にぎやかな楽しい新春晩餐会だった。

最後に記念写真を撮り散会となった。このあと 8 人ほどが二次会へ。いつものスナック・アムールでカラオケを楽しんだ。すべて終了したのは 10 時だった。

(参加者) 工藤文昭、松本莞爾、廣永峻一、池田清志、田北芳博、城戸邦晴、橋本悦子、山本 直、土井 理、田上裕輝(親子で)、三宅厚雄、岩下律雄、浦川留美、前田節子、赤星隆弘、武田偉幸、田上さやか、松本 徹、山下和記



## 1 1 会員の異動

会員入退会(10月~12月) 新入会友 中野 剛 退会者 なし

**編集後記** 今回はページ数が多かったせいか、なかなか各報告書がうまい具合に収まりませんでした。印刷の関係で4ページ単位の編集です。写真を中心に調整してページ合わせをしますが今回は苦労しました。今回は24ページ、28ページになれば郵送料が上がります。

というようなことをしておりますが、皆さん本誌は自由投稿と同じようなものですから、適当な自分の思いを投稿していただくと有り難いです。今年も山に、自分の好きなことに頑張りましょう。毎度のことながら皆さんからの寄稿をお待ちしております。城戸さん、池田さんのほか役員の皆様は校正をお願い致しました。

田北 芳博 Eメール [yt19-57@tune.ocn.ne.jp](mailto:yt19-57@tune.ocn.ne.jp) ☎ 田北 09087611471